

第四期武蔵野市コミュニティ評価委員会 第9回議事録

日 時 令和2年9月28日（月曜日）午後2時30分～午後4時30分
場 所 武蔵野市役所 西棟111会議室
出席者 玉野委員長、深田副委員長、佐藤委員、青木委員、寺島委員、小島委員（名簿順、敬称略）
傍聴者 なし

<次第>

1 開会

2 議題

- （1）視察の振り返りについて
- （2）総括コメントについて
- （3）素案（たたき台）について
 - ・総評の論点について
 - ・地域フォーラムとコミュニティ未来塾について
 - ・ハード面の総括について

3 その他

4 閉会

<配布資料>

資料1 視察コメント一覧
資料2 報告書の構成案
資料3 報告書素案（たたき台）

参考資料 佐藤委員提供資料

<議事録>

1 開会

【委員長】 第9回のコミュニティ評価委員会となります。それでは資料の説明を事務局からお願いします。

【事務局】 資料は資料1から3までの3点と、佐藤委員からの提供資料、委員のみの資料として本日の進行表と作成途中の総括コメントを配布しています。総括コメントは前回の委員会以降に各委員からいただいた意見を加筆したもので、まだ公表する資料ではなく、次回に向けて精査していこうと考えております。資料については以上です。

【委員長】 それでは、引き続き本日の委員会の趣旨・進行についてお願いします。

【事務局】 本日の議題が3点で、1点目が（1）視察の振り返りについてです。先月の2回の視察を踏まえて、施設の特徴や課題について、資料1を参照しながらご意見をお願いします。ハード面のほか、施設の使い方の工夫など事業に影響があるようなソフト面のご意見など、整体的なご意見をいただければと思います。

2点目の（2）総括コメントについては、前回の視察を踏まえて、総括コメントに付け加えるべきことをお出しいただき、もしなければ次回までに事務局にお寄せいただいて取りまとめたいと考えています。

3点目の（3）素案（たたき台）についてがメインとなります。まず資料2・報告書の構成案を確認したうえで、資料3・報告書素案（たたき台）に沿って説明し、ご検討いただきます。

検討のポイントが主に3点あり、1点目はどのような共通論点を取り上げるか、2点目は地域フォーラムとコミュニティ未来塾についての総括、3点目はハード面の総括をどうするか。ハード面の総括は視察の振り返りの意見を踏まえて検討できればと考えています。

本日の議題の趣旨は以上です。

【委員長】 本日の議題と狙いについては以上の通りですが、疑問点などありますでしょうか。特にないようですので、議事に移りたいと思います。

2 議事：

（1）視察の振り返りについて

【委員長】 それでは視察の振り返りについて事務局より説明をお願いします。

【事務局】 資料1をお開きください。

この表の左から、「視点1」が施設の特徴、「視点2」が施設のハード面や使い方といったソフト面の課題、「視点3」が評価すべきポイントについて気づいた点、一番右が「その他」です。便宜上4列に分けていますが、明確な区分ではないので重なり合うところもあると思われます。

多かったコメントを一部ご紹介します。例えば、「吉祥寺東」の「その他」で「庭をうまく活用している」、これは他のいくつかのコミセンでも似たコメントが寄せられています。「本宿」の「視点2」の「和室の使い方の工夫」のコメントも、他のいくつかのコミセンと共通しています。「御殿山」の「視点3」、「レクリエーション室を多目的に使っている」コメントで、多目的・多機能に工夫して使っているという評価もいくつかのコミセンでいた

いています。また「本町」や「中央」ではエレベーターが大きな課題とされました。「吉祥寺北」は「視点3」で「ロビーが多目的に利用されている」とあり、「緑町」・「八幡町」などロビーに着目した評価も複数ありました。「関前分館」は使い勝手や運営面の負担についてのコメントがあります。なお補足の資料を委員からご提出いただいています。

【A委員】 各館の共通課題ということで、1枚資料を提出しました。

概略的には、ハードの課題についてはコミュニティ協議会だけで対応するのはなかなか難しいでしょうから、行政側と、できれば専門家も交えて時間をかけて考えていく必要があるのではないかと考えています。コミセンがそもそもの設置目的であるコミュニティを醸成していくということから、今では少しずつ崩れてきていて、公民館的な価値感的なものになってきているということの要因の1つに、ハードの問題もあるのではないかとということも考えました。ただしその改善というのはなかなか難しいです。

例えば設備機器の改修とかバリアフリー化などは非常にわかりやすい形で問題化しています。一方で、コミセンの空間の持つ雰囲気はどうすれば、もう少し当初の目的にあった建物になっていくかということとはなかなか表面化しにくいのですが、そうしたことについてもやはり見直していった方がよいのではないかと思います。

ここ2～3年、私の大学で評価委員会とは別に各コミセンに伺いながら、コミュニティも対象とした建築の分析ということを研究していきまして、その中で比較的わかりやすい資料をお持ちしました。1枚目は武蔵野市には分館を除いて16のコミセンがありますが、それぞれ本当に特徴があります。規模の違いなどの特徴を一目でわかるように表したのがこの1枚目の資料です。それぞれの建物の大きさなどがわかりますし、周りが公園に囲まれているとか住宅地であるとかの状況など、特徴が一目でわかるような図にできないかというふうに試みたものです。

その次の資料は、各コミセンについて、道路からどのように見えて、共用部に入っていったら、エントランス、ロビーのあたりまで繋がっていく、そこが来館者からどのように見えているのかといったことが、コミセンのイメージや使い方に影響してくるのではないかと考えて作成しています。各コミセンがどんな空間になっていて、どんなふうに外から感じられるのだろうかといったことがわかりやすいのではないかと思います、参考までに提出しました。

【委員長】 視察のコメント一覧は細かい資料ですけれども、これを踏まえて全体的な感想も含め意見交換ができればと思います。全体を俯瞰するのに都合がよい、イメージできる資料もいただいたので、視察の結果全体を踏まえて少しコメントをいただきたいと思います。

私自身はこれまで何年かおきに関わって、その都度いくつかのコミセンは見てきましたが、全部を一度にまとめて見るのは今回が初めてでした。改めていくつか思ったことは、いくつかのコミセンは先ほど話の出た庭をうまく使っているとか、公園と一体で使っているといった取組みがあり、周りと連続的に広がっていくような空間があるのが印象的でした。逆に個別の例を挙げて申し訳ないですが、西部コミセンは四角い施設という感じで、意外と外に広がるところがないのです。すごくよい施設で部屋も揃っているけれども、意外と近隣と繋がっていくことが難しい構造になっていたのだと改めて思いました。いろいろな活動でコミセンに来るけれども、個々に動いているのではないかという印象は、施設を見ても感じた印象でした。そういう意味で、施設の改修をする場合に交流の条件となるような点に気

を付けたらよいのかなという気がしました。

もう1つ改めて思ったのが、時代的な制約のようなことで、施設を建てた頃は確かに和室や舞台があることが市民活動にとってとても重要だったでしょうが、今何十年か経って振り返ってみると変わってきていると感じる部分もあります。その一方、和室が一般の家庭では少ないので、活用されている部分もあり、悩ましいところです。そうした時代的な活動の変化と部屋の作りや広さというのを、うまく工夫していかないと難しい問題があると思いました。改修の際に地元の要望を加味してかなりよくなった例もありますから、その辺を今後、改修できるときには考えねばいけないと思っています。私はこれまで住民の組織とコミュニティという形で考えてきましたが、今回ハードの部分からも考えることができ、各コミセンの雰囲気の違いにつながっていると感じました。活動の背景や活動のあり方の変化と、施設の改修をどうするかは、やはりとても重要なことでこれから考えていかねばならないでしょう。そういう意味では、評価委員会がきちんと整理して、今度何らかの改修がある時に、それを行政も市民も確認できるような提言をしなければいけないと感じたのが全体的な印象です。

【副委員長】 私も16コミセン細かく見たのは初めてでしたので、いろいろわかってよかったです。特にエレベーター設置に伴って、内装まで改修されたコミセンは本当に素晴らしいと思いました。いろんな問題点もかなり解決した部分もあり、エレベーターの設置はとてもよかったと思います。一方で、エレベーターが設置できない2つのコミセンがあるというのはすごく残念です。

コミセン側としては、ロビー・サロンの使い方などの面では非常に工夫されているなと思いました。

和室と茶室については、茶室の使用率が高いコミセンもあった気はしますが、多くはあまり使われてない印象です。茶室ですから専ら茶道で使われているのか、他の目的でも使われているのかわかりませんが、時代の変化で使用率が少ないのかなと強く感じました。和室も有効に使っているところもあれば、あまり有効でなさそうなコミセンもあった感じがします。ただ、移動できる机・椅子を入れるなど、会議ができるような形で工夫をして利用率を上げているコミセンもありましたので、今後はやはり和室の使い方を考えていった方がよいと思いました。

ただ、和室をなくすといろいろ問題があるとも思います。特に災害が起きときは、コミセンは「地域支え合いステーション」になっているため、和室がないと避難先として使い勝手が悪くなる可能性があります。和室をフローリングにした方がよいかなとも考えましたが、どちらがよいとも言い切れない。

あと非常に細かい話ですけれども、壁が汚れてきているコミセンもあるので、対応を今後市として考えられた方がよいと思います。またカーテンも意外と古ぼけてしまっているところもありましたので、この辺も考えていった方がよいかなと思います。

【委員長】 他にいかがでしょうか。

【A委員】 委員長と副委員長の指摘と関連しますが、ハードの問題を例えば3つぐらいに分けて考えてみますと、外との関係で、周囲の住宅などとの関係をどういうふうにしていく

かという点が1つあります。次に共用部、エントランスから入ってロビー、廊下に繋がっていくところについてが、2点目です。そして、和室や舞台はどうしようといった各部屋の性的な問題が3つ目としてあるかと思います。最後の点は非常に話題にしやすいです。

結構大事なのが、実は1番の問題で、やはりかつて作られた時と周辺状況も変わってきていて、具体的に言えば、カーテンが閉まっていたり、窓際にパーテーションが置かれていたり、廊下側も壁が多かったり、外に開かれていない施設もありました。そうすると空間的には、例えが悪いかもしれませんが、カラオケボックスや貸しスタジオなどと同じようになってしまいます。外にも開けず、中にも繋がってない。それは変えていくべきで、外との関係を何か改善するのは難しいのであれば、中での環境を少し変えてみることも必要ではないかなと思います。

これはコミセンをどういうふうにしていくかという今後の将来的な展望にも関わってきます。貸館施設だからやむを得ないというのであればそれでもよいかもしれませんが、でもそうではないと思っていますので、そのあたりはハードと制度の問題であって、先ほども話しましたが共用部と他の部分との関係を変えるとか、ロビーの部分とかをもう少し空間的にも居心地をよくしたり、あるいはコミュニティを促進できたりするような形に、ハード面から改善していくことも大事だと思います。

【B委員】 まず全体として、やはりバリアフリー化を考えねばならないところが多くありました。トイレのセンサー式の照明とか、蛇口もレバー式でなくセンサー式にするなどのバリアフリー化が必要だと思いました。

それから掲示物や配布物の置き場所という観点から見ますと、主催行事を掲示板に明確に出しているところ、館の利用状況を明示しているところがある一方で、市の行事や議会の一般質問の掲示文書があまり目立たないところもありました。主催行事、市の案件、その他のジャンルの掲示物がもう少し明確にメッセージとして出せるとよいのではないかなと思いました。

前面の道路との一体感、例えば西久保コミセンは正面に階段がありますが、やはり入口の部分は大事なかなと思いました。それから吉祥寺西コミセンは、接道部分から玄関まで少し距離がありますが、それもこの館に入館するまでの期待感を抱かせるような効果もあるかなと思いました。けやきコミセンも前面道路からのアプローチは、すぐ入れるのと違って違います。そうした敷地や立地条件は大切に生かしていかなくてはいけないだろうと思います。

あとは、全体的に東コミセン以外はみんな2階3階建てなので、エレベーターの有無にかかわらず、階段の手すりについては気になりました。今後さらに年齢層の高い利用が増えるので、手すりの高さなど更なるバリアフリー化は必要かなと思いました。

畳の部屋は、普通の家ではなくなっていく中で、貴重な存在になっていくのではないかなと思います。それを有効に利用されているコミセンもあると思いますので、それぞれのコミセンが特性を生かした使い方をされることを期待したいところです。

【C委員】 特徴として、各協議会は施設の制約がある中で、うまく工夫して使っているという印象を持ちました。施設の規模にかかわらず何か親戚の家のような親しみやすい感じを醸し出しているところが多かったように思います。床面積に関係なく、小規模コミセンでも周りの空間をうまく使っていて、思った以上に広い印象を受け、事業の開催方法も工夫さ

れていました。施設は、庭や空間の使い方が重要だと改めて感じ、人を呼び込むように設えていると気づかされました。「これからの地域コミュニティ検討委員会」の提言の中では、複合化や多機能化も考えてということでしたが、多くの部屋が、現在でも十分に多機能で使われているのではないかと感じました。今回のコロナ禍を踏まえると、例えば小学校などの他の施設と一緒にあったときに、果たしてコミュニティづくりの活動が続けられるかという点も考える必要があると思います。単独の施設として建っている良さや使いやすさ、入っていきやすさなどについて再確認する必要性を感じました。

また、反対にあまり施設周囲の空間が少ないコミセン、たとえば中央コミセンでは道路側から玄関に行く途中で、多目的室でチェロやバイオリンを弾いてらっしゃる方々の様子が窓から見え、楽しさが道路まで伝わってくるような感じがありました。他のいくつかのコミセンでも同様に感じたところがありました。

【D委員】 先ほどから和室とか茶室の利用が少ないという話が出ましたが、やはり和室については災害時にとても必要なので残していきつつ、使い方を工夫してほしいということと、茶室も日本の伝統文化の点から大切だと思うので、何か上手く活用できるようにコミセン側から仕掛けてほしいと思っています。

それから、それぞれのコミセンが部屋の使い方などを一生懸命工夫していることは、本当に誰もが認めることです。ただ、コミセンを回ってみて感じたのは、ソフト面ではやや保守的というか守りの姿勢になってしまっていて、自分たちのコミセンの中で同じようなイベントを繰り返しているところが感じられたり、あまり開放的ではない部分もあったりして、もう少し外に向けての発信がほしいと思いました。

また関前の分館については、距離が離れていて鍵閉めも大変であることと、使用目的もほとんど貸館的であるので、今後の分館のあり方についても考えていくべきだろうと思っています。

【委員長】 ありがとうございます。すでにいくつか整理された論点が出てきて、後でのハード面の総括についてそのまま生かせるのではないかというふうに思います。

（２）総括コメントについて

【委員長】 続いて、総括コメント等についてはどう考えていくかということで２番目の議題に移ります。また事務局から説明をお願いします。

【事務局】 総括コメントは作成途中のため委員限りの資料です。視察も踏まえて、さらに加筆や修正が必要だろうと思います。もう一度全体を見ていただき、不足点や修正すべき点などこの場でご意見をいただくか、後日でも事務局までお知らせ下さい。

【委員長】 こちらには何度か各委員が補足のやり取りをして追記しているものです。まずはこの場で見ていただいて、何かあれば伺いたいと思います。

【副委員長】 運営委員・協力員が大変だと述べているコミセンについて、コメントを追加しました。必要かどうかも含めて検討していただければ有難いです。

また、視察時のコメントを記載した方がよいかについては、入れた方がよいコミセンもあればそうでないコミセンもあると思うので、その辺も整理が必要だと思います。

【B委員】 ソフト面について、コロナ禍のなかで、各コミセンの主催事業が著しく減少しています。コミセンの主催事業をどのように行っていくのが大事な要素です。建物などハード面もさることながら、ソフト面のことも考え合わせると、そうした点も明記していてもよいのではと思いました。

来月から事業展開を予定しているコミセンは、まだ限られています。例えば、吉祥寺南町ではふるさと歴史館の出張パネル展を開催予定のようです。事業費の補助を受けて計画を立てていることを考えると、コロナ禍でいろいろ制約があり難しさもあるかもしれませんが、工夫次第で何かできるのでないか積極的に考えていく必要があると思います。

【D委員】 「これからの地域コミュニティ検討委員会」で提案された話し合いの場や学びの場について、まだ十分に活かされていない、どこか活かすところはないかと思い、コミセンを追加しました。地域フォーラム・未来塾についての視点で書き加えられないかなと思いました。

【C委員】 北コミは地域フォーラムの記載がありますが、他ではあまり書かれていません。地域フォーラムは他でも多く取り組まれていたと思います。地域フォーラムという名前を使わない話し合いの場もありましたので、そのあたりも追記できるとよいかもしれません。

【委員長】 まだ冗長かなと思う箇所もあり、今いただいた意見の追加もあると思います。あらためてみなさんから意見をいただいて、それを踏まえて修正したものを最後の委員会に提出することとします。

（３）報告書の素案について

【委員長】 目次の構成案について事務局よりお願いします。

【事務局】 資料２についてご覧ください。資料３の報告書の目次に相当するものです。今回の最終回の評価委員会に向けて報告書の取りまとめを進めます。第１章は評価の目的や評価委員会の役割、評価の対象などを記載します。第２章の評価の方法については、評価の基準やプロセスについて説明します。第３章の評価の結果は、１６の協議会ごとの個々の評価を記載します。この部分は資料３の１１頁以降になります。頁数が最も多くなるため、体裁も含めてどれくらい絞り込むか検討したいと思います。第４章は全体的な評価として総評としています。３つに分けていて、１つ目は協議会運営全般について、１６協議会の共通課題を抽出して総括を記載できればと考えています。現状では６つの論点を候補としています。１つは「人材の確保と育成」、２つ目は「諸団体との連携」、３つ目が「情報の発信」、４つ目は「気軽に立ち寄れるコミュニティセンターづくり」、次が「地域や利用者の状況の把握」、最後が「電子的な連絡手段の考慮」です。最初の４つは評価基準・評価シートの項目から引用しているものです。最後の２つ、特に電子的な連絡手段の考慮については、コロナ禍における運営をどう工夫するかというテーマです。

次が地域フォーラムとコミュニティ未来塾についてです。（１）では、これまでの経緯を記載しており、（２）で地域フォーラムの評価と展望、（３）がコミュニティ未来塾の評価と展望になっています。

最後の３番目が施設設備等のハード面の話で、来年度の公共施設等総合管理計画の類型

別の計画づくりにつなげたいと考えています。(1)はこれまでの経緯と現状について、評価が求められている理由・経緯を説明します。(2)の今後に向けては、①は施設の再配置等について、②が施設の保全・改修について、例えば老朽化、バリアフリー、利便性といった施設の改修についての記載を想定しています。全体の構成は以上のような案です。

【委員長】 まずは全体の構成について、ご議論いただきたいと思います。ご意見があればうかがいます。

【A委員】 ハードに関する個別の意見は、評価の結果の中に入れるのでしょうか、それともハード面についての文章の中に入れるのでしょうか。

【事務局】 個々のコミセンのハード面の具体的なコメントについては、評価結果に入れることは想定していません。ハード面の全体的な話について、「総評」の3番に入れることを想定しています。ただ協議会の活動などソフト面に影響する個別コメントがあれば、評価結果に入れることを考えたいと思います。本日の資料1は、添付資料として報告書に付けることは考えられると思います。

【委員長】 評価の方法について、ハード面を視察し、検証したという点は入れたほうがよいと思います。また、地域フォーラムとコミュニティ未来塾の記載は最後にしたほうがよいかもしれません。協議会全体の評価とハード面との関係性という順番にしたほうがよいでしょう。

【副委員長】 コロナの問題をどこかに入れるか入れないか。時期的に微妙なところですが、コロナ禍におけるコミュニティづくりのありかたに触れる必要があるのかを考えたほうがよいと思います。主催事業はほとんど止まってしまい、コミセン祭りも中止にしているところが多いです。

【委員長】 評価の目的の流れには、コロナの経緯を入れる必要があるでしょう。あとは、今後のことについてこの委員会としてどこまで触れるかということかと思います。

【B委員】 コミセンがすすんで休館したわけではないですし、元々は昨年度に予定していたが視察が途中で止まったことなども考えると、コロナの記載は必要だと思います。その場合、休館中における各コミセンの取組みも含めての記載が必要だと思います。

個々の記載について述べますと、青少年リーダーの記載は、東コミセンでも高校生・大学生の運営委員がいますので、ジャンボリーを通じて運営委員になったケースもあるので記載できるとよいです。

地域フォーラムは、東コミセンの集いは地域フォーラムという名称ができる前からの取組みもあり、もう少し踏み込んだ記載が必要でないかと思います。

自治基本条例について、地域のコミセンとしては、投げかけたことは最後までどうなったかを地域の皆さんと共有していきたいとのことでしたので、このあたりの記載はもう少し整理したほうがよいと思います。

各コミセンのホームページについても、どのように地域に発信しているのかも記載できるとよいと思います。

コミュニティ未来塾については、総括の追記が必要だと思います。

ハード面については、バリアフリー化やトイレの更新などの点について、統一感を持って今後の改修に取り入れ、改築、複合化も視野に入れたほうがよいと思います。また、地域社

協や防災組織との関係をどうしたらよいかの検討も必要で、地域の諸団体との連携の話を記載したほうがよいと思います。

【委員長】 コロナについてはどのように触れましょうか。前々回の委員会の資料で、緊急で把握したコロナの影響に関するアンケートの紹介があったほうがよいでしょう。第1章では触れざるを得ないと思いますが、付録という形で影響と今後の形について記載するのがよいと思います。密を避ける工夫はいろいろ出てきているので、そうした点を書けるとよいです。あとは、「終わりに」など締め括りの項で触れる程度でしょうか。

次に素案の中身について、事務局の説明を受けてご意見をいただきたいと思います。

【事務局】 資料3について、第1章で評価委員会の役割や目的、構成を記載しています。第1章か第2章で、先ほどのコロナのことなども評価委員会の活動経緯に触れる中で盛り込んでいければよいと考えています。第2章の評価の基準や評価方法については説明をより丁寧にしていく予定です。

第3章が各コミュニティ評価協議会の評価シートになります。市民の皆さんが手に取って読んでもらえるよう、全体としては100頁くらいには抑えたいため、ボリュームや体裁は検討したいと思います。

第4章が総評です。論点案の1番目が情報の発信で、①で現状に対する評価についてということで、情報発信の重要性が高まっているとし、その上で各コミセンの取組みを例示しています。次にお互いの参考例になるよう3つの好事例を抽出し掲載しています。最後、今後に向けてということで情報発信の提言が書けるとよいと考えています。

次の「人材の確保・育成」についても同様の構成です。人材の確保と育成について、それぞれ課題と具体例を挙げています。どの具体例を挙げる必要があるかも、ご意見をうかがいたいと思います。②の今後に向けてで、今後の提言を記載します。

(3) 諸団体との連携についても同様の構成です。地域フォーラムとの関係もある論点です。

(4) 気軽に立ち寄れるコミュニティセンターづくりということで、より開放的なコミュニティセンターであるようにと記載しています。(1)から(4)までは評価基準とオーバーラップしている項目です。

(5) 地域や利用者の状況の把握は、より利用されやすいコミュニティセンターのために、主催事業の企画についても地域や利用者の声をどのように把握して分析していくかという内容です。

(6) 電子的な連絡手段の考慮は、コロナと関係する論点で、協議会の運営、主催事業の実施について、電子的な手段をどのように活用するかというものです。

2. 地域フォーラム、コミュニティ未来塾についてでは、まずこれまでの経緯を載せており、「これからの地域コミュニティ検討委員会」の提言を引用しています。次にこれまでの具体例を抜粋しています。

(2) 今後に向けてでは、総括を地域フォーラムとコミュニティ未来塾について記載しています。地域フォーラムについては諸団体との連携を深められたという成果の一方で、行政のリーダーシップ不足や協議会の負担が大きかった点、フォーラム開催後の展開が難しかったことなどを記載しています。今後としては、行政職員の理解・認知を広め、参加・情報

提供を促す必要がある、コミュニティ協議会と諸団体とで対話を行い、それぞれの役割分担について整理する必要があると記載しています。

コミュニティ未来塾むさしのについては、様々な主体が参加できる場であった点は評価できる一方で、今後の企画運営については、コミュニティ研究連絡会と連携してコミセン活動と連動したプログラムにすべきといったことを記載しています。

最後のハード面の総括については、これまでの経緯と現状についてで、公共施設等総合管理計画の策定プロセスやコミセンの類型別計画の方針を引用しています。次の、改修・工事の経緯の一覧表は細かい内容であるため、築 60 年目をいつ迎えるかの表に差し替えたいと考えています。続いてハード面の今後に向けてということで、総括的な記載になります。①の施設の再配置等について、地域の活動拠点として発展してきた歴史的な経緯があるということと、各コミュニティ協議会が施設運営に熟達してきているといったことを記載しています。

②が保全改修についてで、老朽化やバリアフリーへの対応について記載しています。素案の概略については以上です。

【委員長】 まずは総評の論点について意見をうかがい、本日のところは方向性を確認して、文案については事務局と正副委員長で調整をして、最終的にみなさんにお示しするという形になります。一応今日は方向性についてご議論をいただければと思います。

総評の論点について、ご意見はありますか。

総評では、現状について実際の例を挙げて、その上で今後の方向性を書く形でよいと思います。例えば「人材の確保・育成」のところで、学びの場を活用するといったことも記載したほうがよいと思います。今後に向けてのところで、未来塾をどう位置付けるのかを書くべきだろうと思います。

また、「電子的な連絡手段の考慮」は独立した項目ではなく、「情報発信」のなかに入れ、情報発信との関連で位置づけるのがよいと思います。

「気軽に立ち寄れるコミュニティセンターづくりについて」は、視察の成果を位置付けるというのではないかと思います。

「利用者や地域の状況把握」については、統計的な地域の変化を考えるとよいという意味で、「こうした人が増えているから、こうした事業を始めた」という取組みに着目できるとよいと思います。ただ日常的な感覚で把握するだけではなく、実際に行政がまとめているデータなどもあるわけですから、そうしたデータを活かした取組みに着目できるのではないかと思います。

【副委員長】 地域の団体をつなげる、というけやきコミセンの話がありましたが、これは各コミセン全体の話だと思いますので、コミセンごとに記載するというよりは、総評の中で記載したほうがよいと思います。

少し難しいのですが、情報発信の今後の方向性について、コロナでとても大きな問題になっています。デジタル化の話も世間を賑やかしていて、インターネットを使った情報発信・受信は欠かせないものになっていますが、コミセンはこの分野において非常に遅れていると感じます。以前 Wi-Fi 環境を入れる、入れないという議論がありましたが、一部のコミ

センではそうした取り組みをしています。個人的にはもっと PC やスマートフォンを活用して、インターネットを活用したやり取りができる環境を取り入れるべきと考えていますが、それができる人材が今のコミセンには不足しています。人材の育成がとても大切です。吉祥寺西コミセンではホームページを担当してくれていた委員が亡くなり、後継者が見つかっていません。人材がないというジレンマがあり、そうしたことを提言できるとよいと思います。

【A委員】 この状況においては、ネット等で発信していく仕組みを作り、それを工夫して活用していく必要があると思います。その工夫の仕方を各コミセンで共有できるとよいと思います。また、でき上がった先のことも考える必要があります。たぶん1回使うと意外とみなさんできるようになるでしょう。会議もネット上でできるようになります。実際にコミセンに行けない状況の中での連絡手段をどうするのかという問題も出てきます。また、そうした状況の中でのコミセンの使い方についても議論が必要であると思います。

【C委員】 これからの市民活動は、SNSやYouTubeなども使って発信していくということも考えていかなければ、コロナとともに生きていくなかでは難しいのかなと考えています。また、コロナにかかわらず、今は来館者がSNSなどを使って発信者にもなり得ます。新しいところに踏み込めば、また新しい人たちがいますし、バーチャルを基本に活動していた人が、コミセンに集まってオフ会で会う等もあり得ます。そのような形も想定に入れ込んでいったほうがよいのかなと思います。また、情報のツールが新しくなることにより、新しい人たちが参加してくることもあるので、その辺りをどう評価していくのか、難しいですが考える必要があると思います。

【B委員】 コミセンでも電子媒体をどのようにつかっていくのかを検討しているところです。コミセンによっては得手不得手があるので、先行して取り組んでいるコミセンから学んでいく必要があると思います。また、本宿小学校はオンラインで双方向の授業を全家庭でできたということですが、そのようにシステムを持つご家庭とコミセンを結び付けていくのも考えられるのではないのでしょうか。来年度から3年間の試行ということで、小学校の生徒全員にタブレットが配布されるようですが、それを考えると電子媒体・オンライン化を進めていく必要性がコロナ禍を契機に促進されていくのではないかと期待しています。意見を求められた時にしっかりと対応できるよう、コミセンもしっかりと考え方を構築していく必要があると考えています。ここに書かれていないことも含めて、いくつかのことは現実的に行われており、取り組んでいく必要性があると感じています。

【委員長】 総評のまとめが必要になってくるのではないのでしょうか。大きな将来の話は、まとめて記載するのがよいと思います。大学の授業でもオンラインの方がよいとの意見があり、以前のやり方ではなく、バージョンアップしなければいけないと思います。コミュニティ活動も実際に集まってやる時には何が大事になってくるのかをもう一度考える必要がでてくるでしょうから、最後のまとめで触れたほうがよいと思います。

個別の評価の部分については、読みやすさを考えると、総括コメントを冒頭に記載したほうがよいのではないかと思います。細かく見たい人は詳細をみるという構成のほうがよいと思います。

次に地域フォーラムについて議論したいと思いますが、いかがでしょうか。「地域フォーラム」という名称でなくても、いままでやってきた取組みについては評価すべきというのは1つの論点だと思うのですが、提案した立場としては、行政のコミュニティ担当以外の部局が提案して活かしていけるとよいと考えていました。コミュニティ担当以外の部局が地域フォーラムをあまり利用していないイメージがあります。行政のなかでの浸透がまだ十分でない印象です。他部局が市民・地域との関係で話し合うときに、この地域フォーラムに問題提起をして、そこで議論をして対応の仕方を考えていくという方法として、活用してもらえるよいという点を付け加えたいです。逆に、コミュニティの側からは、行政や他の団体にこういった視点を持ってほしいなどと提起・要求する場として主に活用するとよいと思います

【B委員】 これまでもコミュニティの側から、取り上げるテーマに応じて、所管する部署の部長や課長にいらしていただくなど、地域フォーラムという名称でなくとも、行政とは繋がりをもって話し合いの場を設けてきましたし、行政もそんなに後ろ向きだったわけではありません。地域フォーラムに限らず、実質的な日頃の行政のバックアップは感じているという点を、評価の部分に何かしら記載できないかと思います。

【委員長】 コミュニティ未来塾についてはどうでしょうか。コミセンとの関わりのなかでの学びの場になっていないという議論でしたが、それ以外はありませんでしょうか。

【D委員】 人材不足についてご指摘がありましたが、コミセンの運営委員の学ぶ場もどこかで行うべきだろうと思います。

【委員長】 ハード面については、視察の振り返りの議論で出てきたバリアフリーなどの論点を整理すればよいと思います。

【A委員】 視察の結果が反映されるとよいと思います。

【委員長】 最後に何かありますでしょうか。

【B委員】 第4章の総評の後に今後のことを記載するか、第5章として記載されるかについて検討いただきたいと思います。この評価委員会は次の橋渡しになっていかなければならず、第五期につなげる意識を持って記載する必要がありますので、最後の章立ての構成として、検討すべきであると思います。

【委員長】 第5章として1章分を述べる文量はなさそうですが、終わりに、では短すぎるように感じますので、まとめ程度で記載があるとよいと思います。事務局と検討して付け加えたいと思いますが、途中で各委員のご意見をいただく機会もあると思います。

それでは皆さま、ご意見ありがとうございました。事務局より連絡をお願いします。

3 その他

【事務局】 今回は10月28日水曜日18時半から開始で、場所はこの111会議室です。

今後の進め方として、委員長・副委員長とは報告書検討の打ち合わせを考えていますが、他の委員の方々からも本日の報告書素案をベースに意見をいただきたいと思います。素案

をブラッシュアップした後にも、再度ご意見をいただきたいと考えておりますので、改めてご案内します。

【委員長】 残りひと月しかありません。メール等での意見提出などご負担いただくことになりますが引き続きご協力をお願いします。最後に何かありますでしょうか。

【A委員】 ネット環境の整備などで苦勞されているというお話が記憶に残っています。ホームページの更新含め、苦勞されているところはほかにもあると思いますので、行政からの支援が必要だと思います。一回ハードルを越えるとやりやすくなるのですが、それまでの支援が必要です。

【委員長】 武蔵野市の場合には、各エリアの自主性を重視していたがゆえに、積極的な技術的支援についても控え目にしたほうがよいのではないかという議論がありました。総括の部分で触れたいと思いますが、定着して自主的に実施できるまでの行政支援のあり方について、将来的な課題として指摘できないか検討したいと思います。

以上で本日の委員会を終了いたします。ありがとうございました。

4 閉会

以上